

2004年度版 環境マネジメント報告書



(株) 近畿分析センター

(対象期間：2003年4月1日～2004年3月31日)

目 次

1. 近畿分析センターの概要	1 頁
2. 環境方針	2 頁
3. 環境に関する認証及び認定	3 頁
4. 当社の事業運営	4 頁
5. 環境目的・目標と達成状況	5 頁
6. 環境測定結果	8 頁
7. 教育・訓練活動	10 頁
8. 緊急事態想定訓練・テスト	11 頁
9. 地域貢献活動	12 頁
10. 連絡先	13 頁

1. 近畿分析センターの概要

ごあいさつ

株式会社近畿分析センターは、NEC関西の全額出資による関連事業として、昭和47年（1972年）2月に設立いたしました。

弊社は、NEC関西の開発研究部門で長年にわたり蓄積された化学分析・機器分析の技術と技術調査の情報で広く社会に貢献したいという念願で設立され、以来環境分析とエレクトロニクス関連の材料分析を主体として弛まぬ技術の研鑽を重ね今日に至っております。

ご高承の通り環境問題は人と地球の環境保全として世界的に注目され、環境の汚染・汚濁をはじめ新たな有害物の分析、又労働衛生面の環境測定にかかわる測定等、益々多様化するニーズに対しご満足いただける情報提供に取り組んでおります。

一方、技術革新の急速に進む今日、ハイテクノロジーの研究開発、又品質管理・改善等を効率的に改善するための材料分析・評価による技術支援活動の必要性は益々高まっております。

弊社は材料分析等の機器分析技術と技術情報の調査等につきまして、長年蓄積されたノウハウを基に、最新の先端技術を駆使し、問題解決の価値あるデータとしてご期待に添えるようご協力いたしております。さらに平成15年度よりISOコンサルティング部を新設し、総合的な環境ソリューションの提供を目指しております。

今後とも、高度な分析技術に積極的に挑戦し、機密を厳守して信頼ある情報を迅速にご提供することをモットーに誠意をもってお応えする所存でございます。

一層のご活用、ご支援を心からお願い申し上げます。

代表取締役 横山成紀

● 名 称 : 株式会社 近畿分析センター

● 所在地 : 〒520-0833 滋賀県大津市晴嵐二丁目9番1号

TEL 077-534-0651、 FAX 077-533-1604

● 設 立 : 1972年2月（関西日本電気株式会社より分離独立）

● 業 務 内 容 :

1. 分析事業

○環境計量証明（濃度、騒音・振動、特定濃度(DXN)）

○作業環境測定

○建築物飲料水水質検査

○土壌汚染状況調査

○各種製品・材料の分析評価

2. コンサルティング事業

○環境マネジメントシステムに係わるコンサルティング

○品質マネジメントシステムに係わるコンサルティング

2. 環境方針（環境理念と6つの行動指針で構成）

【環境理念】

自然のいとなみを尊重した環境マネジメントシステムを展開し、環境にやさしい事業活動と地球環境保全のための信頼される技術とサービスの提供を行います。

【行動指針】

- （1）環境動向をすばやく入手し、環境に与える影響を考慮した分析技術の開発に努め、価値ある分析とサービスの提供をする。
- （2）環境マネジメントシステムに基づき、事業活動における省資源、省エネルギー、廃棄物削減等の環境保全活動を展開し、継続的改善と環境汚染の未然防止を図る。
- （3）環境関連法令、条例、諸規制及び当社が同意したその他の要求事項を遵守し自主管理基準を設定する。
- （4）環境目的、目標を設定しそれらを達成するための活動計画を策定し実行し定期的な見直しを行う。
- （5）環境方針を文書化し、全員に周知徹底すると共に環境教育を計画的に実施し、意識向上を図り環境マネジメント活動を展開する。
- （6）環境方針の積極的な公開と環境保全活動への提案を通じて、社会に貢献する。

3. 環境に関する認証・認定

◇環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証を1998年7月に取得いたしました。



◇ダイオキシン類環境測定の品質システムに関する認定等

☆平成16・17年度の環境省受注資格審査に合格（2004年3月）

（一般環境大気、公共用水域水質、地下水質、土壌、底質、水生生物、排出ガス、排出水、ばいじん、焼却灰その他の燃え殻、食品、作業環境）

☆特定計量証明事業の認定取得（2002年7月）

（認定区分：大気中のダイオキシン類、水又は土壌中のダイオキシン類）



4. 当社の事業運営

循環・共生型社会の実現に向け、良き企業市民として、また分析事業者として、当社が果たすべき二つの社会的責任(CSR)を遂行します。事業運営としては、環境経営を目指して、①環境負荷低減活動 ②製品・サービスによる環境改善ソリューション提供の2つに注力します。

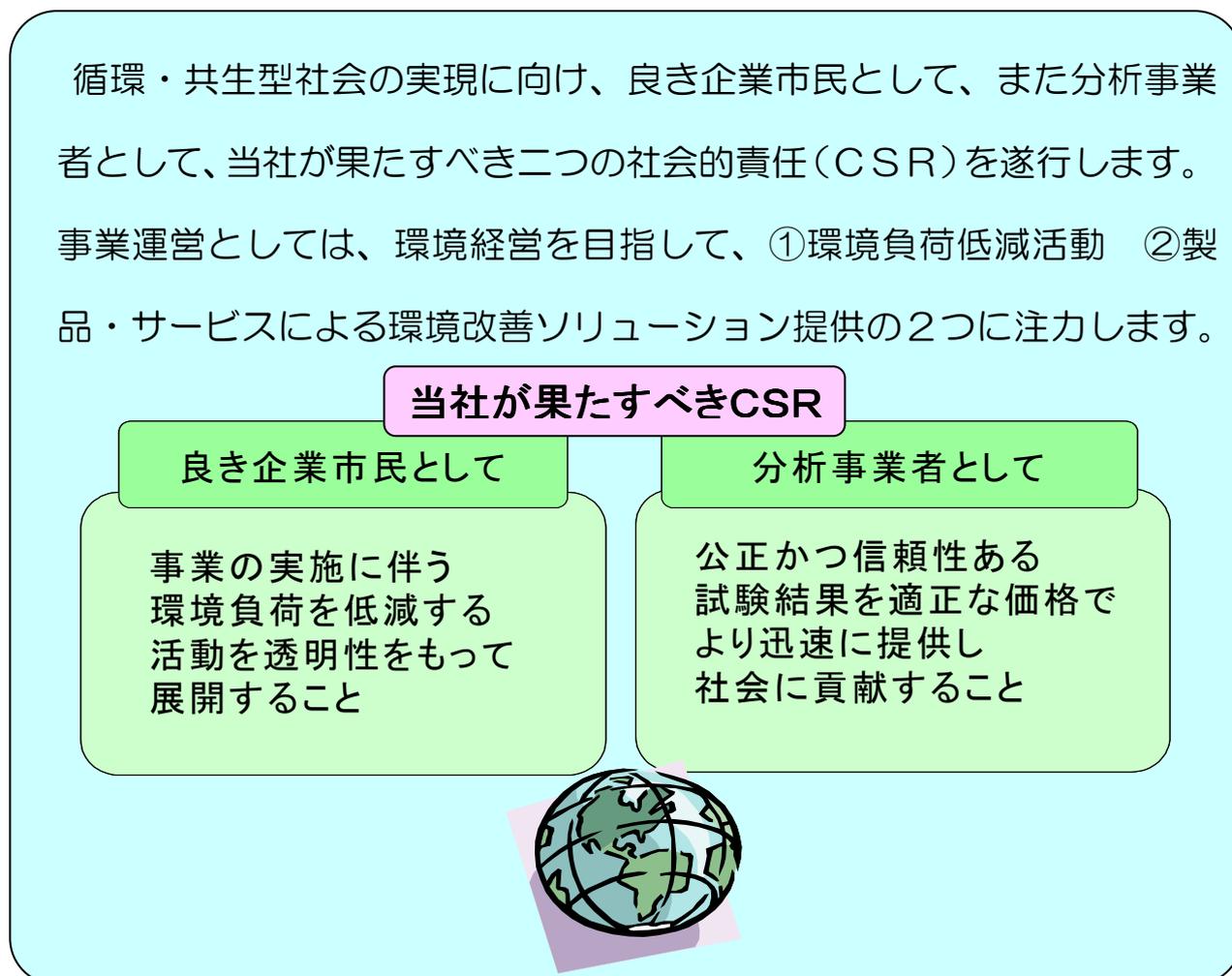
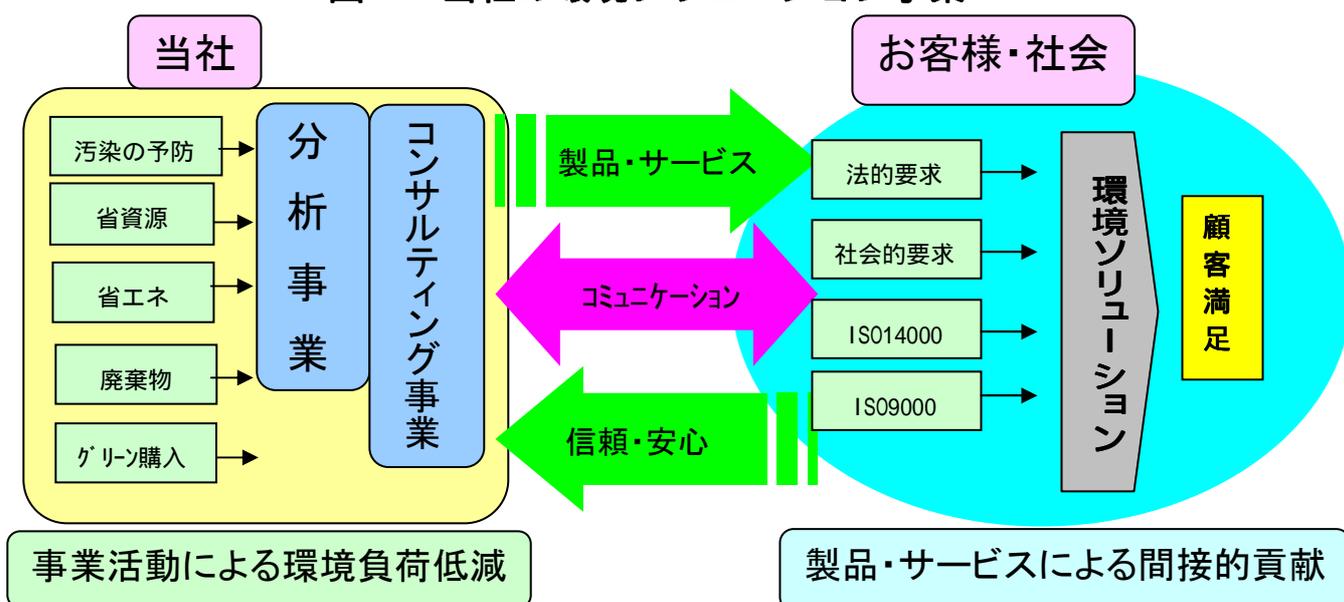


図1 当社の環境ソリューション事業



21世紀の循環・共生型社会への貢献

5. 環境目的・目標（抜粋）

（1）2003年度の達成状況

環境目的の項目	管理項目	2003年度目標値 (環境目標)	2003年度実績	評価	実施内容と成果等
事業活動による環境負荷低減活動					
環境汚染の防止	顕在する不適合の件数	0件/年 〔累計〕	0件/年 〔累計〕	A	EMSの適切な運用により、顕在する不適合:ゼロを継続できました。
省エネルギー	二酸化炭素排出量 (日常管理)	データ監視 〔妥当な理由無く増加しないこと〕	224t-CO2/年 103%(02年比)但し単位面積あたりは87%	—	増床により床面積が20%増加したが、前年度に引き続き省エネ型エアコン導入で、床面積あたりの排出量は低下した
省資源	ペーパーレス化実施件数	2件/年 〔累計〕	2件/年 〔累計〕	A	①仕様書の社内LAN閲覧システム拡大 ②社内報告書の電子閲覧システム構築
	紙使用量 (日常管理)	データ監視 〔妥当な理由無く増加しないこと〕	113% (02年比)	—	コンサル部門を新組織として取り込んだのに伴い、紙使用量が増加。従来の分析部門は横ばい。
廃棄物削減	削減施策実施件数	1件/年 〔累計〕	1件/年 〔累計〕	A	DXN 類分析使用済みアセトン、トルエンの再資源化。(350kg/年削減見込み)
	産業廃棄物処理委託量 (日常管理)	データ監視 〔妥当な理由無く増加しないこと〕	産廃 117%一般 79% (02年比)	—	下水試料の産廃処分化開始及びめっき液CN分析の需要増。

製品・サービスによる間接的貢献を強化する活動

新規分析評価技術の拡充	導入件数	2件／年 〔累計〕	2件／年 〔累計〕	A	RoHS対応の分析技術が拡充できた(但し臭素化有機物分析は対応を見送る) 土壌汚染調査技術の拡充ができた(但し、サンプリングは外注化)
品質システムの強化	認定等取得件数	3件／年 〔累計〕	3件／年 〔累計〕	A	①計量証明事業規定見直しとロマーク運用 ②MLAPフォローアップ ③平成16年度環境省受注資格審査合格
	システム適用拡大分野数	2分野／年 〔累計〕	1件／年 〔累計〕	C	MLAPの苦情処理システムを全機種に展開し統合できた。 設備管理システムの統合については、リソース投入ができず見送りとなった。
業務効率の改善	改善件数	2件／年 〔累計〕	2件／年 〔累計〕	A	・FIB-TEMオペレーター増員、教育強化及びサンプリング方法の変更で処理能向上 ・フッ素自動分析装置の導入等で溶出量調査の検液作成工程の能力向上及びフッ素含有量調査分析の大幅な処理能力向上が図れた。
	ムダ取り件数	24件／年 〔累計〕	93件／年 〔累計〕	A	ムダ取り活動のTOPダウン展開で、提案件数も計画対比大幅増。工数低減がメインだが溶剤の再利用、省エネ等の環境負荷低減も進んだ。

評価基準 A：目標達成率 100%以上、B：目標達成率 75%以上 C：目標達成率 75%未満
D：未着手

(2) 2004年度の環境マネジメントプログラム

環境目的 の項目	管理項目	2004年度 目標値 (環境目標)	2004年度の施策
事業活動による直接リスク低減活動			
環境汚染の 防止	顕在する 不適合の 件数	0件/年 〔累計〕	施設の適切な管理、従業員教育訓練の継続実施並びに監視測定の実施とその結果の早急なフィードバックを行い、顕在化する不適合のゼロを継続する。
省エネルギー	二酸化炭素 排出量	前年度比 110%未 満(売上原 単位)	「二酸化炭素排出量及びその内訳」を監視しながら、きめ細かな日常管理活動を展開していく。
省資源	情報の電子 化、ペーパー レス化実施件数	2件/年 〔累計〕	①大気等の測定のペーパーレス化 ②設備管理の電子化
	紙購入量	前年度比 110%未 満(売上原 単位)	「紙購入量及びその内訳」を監視しながら、きめ細かな日常管理活動を展開していく。
廃棄物削減	削減施策 実施件数	1件/年 〔累計〕	DXN類分析使用済み溶剤の再資源化(2nd)
	産業廃棄物 処理委託量、 一般廃棄物 排出量	前年度比 110%未 満(売上原 単位)	「産業廃棄物、一般廃棄物排出量及びその内訳」を監視しながら、きめ細かな日常管理活動を展開していく。
製品・サービスによる間接的貢献を強化する活動			
新規分析評価 技術の拡充	導入件数	4件/年 〔累計〕	①生活環境影響調査シミュレーション技術の導入 ②半導体解析技術の導入等
品質システム の強化	認定等取得 件数	2件/年 〔累計〕	①各種官公庁主催のクロスチェックへの参加
	システム適用拡 大分野数	2分野/年 〔累計〕	MLAPシステムのダイオキシン類以外への展開
業務効率の 改善	ムダ取り件数	48件/年 〔累計〕	5Sの再徹底と提案に対する報酬制度の取り込みをベースにムダ取り活動の一層の活性化を図り、草の根運動的な改善を積み重ねていく。

6. 環境測定結果

(1) 放流水の測定結果 (2003年度)

測定項目	測定頻度	規制基準値	自主管理基準値	測定値	評価	
有害物質	カドミウム及びその化合物	1回/月	0.01	0.002	<0.001	
	シアン化合物	1回/月	0.1	0.02	<0.01	
	有機燐化合物	1回/年	不検出(<0.1)	不検出(<0.1)	<0.1	
	鉛及びその化合物	1回/月	0.1	0.02	<0.01	
	六価クロム化合物	2回/年	0.05	0.02	<0.01	
	砒素及びその化合物	1回/月	0.05	0.01	<0.01	
	水銀及びその化合物	1回/月	0.005	0.0010	<0.0005	
	アルキル水銀化合物	1回/年	不検出(<0.0005)	不検出(<0.0005)	<0.0005	
	ポリ塩化ビフェニル	1回/年	0.003	0.0010	<0.0005	
	トリクロロエチレン	1回/月	0.3	0.002	<0.001	
	テトラクロロエチレン	1回/月	0.1	0.0010	<0.0005	
	四塩化炭素	1回/3月	0.02	0.0010	<0.0005	
	ジクロロメタン	1回/3月	0.2	0.04	<0.02	
	1,2-ジクロロエタン	1回/3月	0.04	0.008	<0.004	
	1,1,1-トリクロロエタン	1回/月	3	0.002	<0.001	
	1,1,2-トリクロロエタン	1回/3月	0.06	0.012	<0.006	
	1,1-ジクロロエチレン	1回/3月	0.2	0.04	<0.02	
	シス-1,2-ジクロロエチレン	1回/3月	0.4	0.08	<0.04	
	1,3-ジクロロプロペン	1回/3月	0.02	0.004	<0.002	
	チウラム	1回/年	0.06	0.012	<0.006	
	シマジン	1回/年	0.03	0.006	<0.003	
	チオベンカルブ	1回/年	0.2	0.04	<0.02	
	ベンゼン	1回/3月	0.1	0.02	<0.01	
	セレン	1回/年	0.1	0.02	<0.01	
	ホウ素含有量	2回/年	10	0.2	<0.1	
	弗素含有量	2回/年	8	<0.5	<0.5	
	有害物質以外	水素イオン濃度	1回/月	《6.0~8.5》	6.0~8.5	7.2~7.5
生物化学的酸素要求量		1回/月	《90》	19	1.1~9.8	
化学的酸素要求量		1回/月	《90》	8.1	1.3~4.7	
浮遊物質		2回/年	《90》	2.0	1.1、1.4	
ルルキヤ抽出物質		2回/年	《5》	1.0	<0.5	
フェノール類含有量		2回/年	《1》	0.02	<0.01	
銅含有量		2回/年	《1》	0.10	<0.05、0.1	
亜鉛含有量		2回/年	《1》	0.10	<0.05	
溶解性鉄含有量		2回/年	《10》	0.10	<0.05	
溶解性マンガ含有量		2回/年	《10》	0.10	<0.05	
クロム含有量		2回/年	《0.1》	0.02	<0.01	
大腸菌群数		2回/年	《3000》	100	0	
アンチモン含有量		2回/年	《0.05》	0.02	<0.01	
窒素含有量(総和法)		1回/月	《60》	1.9	0.14~1.64	
磷含有量	1回/月	《8》	0.14	<0.05~0.11		

注1) 単位は大腸菌群数が個/cm³、その他がmg/Lである。

注2) 規制基準値は、排水基準を定める省令(昭和46年 総令35)の別表第1, 2及び滋賀県公害防止条例施行規則(昭和48年、滋賀県規則第10条)別表第6に定める排水基準である。また《 》の測定項目は、当社の規制対象外である。

注 3) 評価欄の 印は測定結果が自主管理基準値以下であることを示す。

(2) 排ガス測定結果 (2003年度)

測定施設	測定項目	測定頻度	単位	自主管理 基準値	測定値	評価
廃ガス洗浄装置 No. 1	硫酸	2回/年	mg/m ³ N	5	<1	
	硝酸	2回/年	cm ³ /m ³ N	50	<1、1	
	塩化水素	2回/年	mg/m ³ N	5	<1	
	弗素及びその化合物	2回/年	mg/m ³ N	1	<0.1	
廃ガス洗浄装置 No. 2	硫酸	2回/年	mg/m ³ N	5	<1	
廃ガス洗浄装置 No. 3	硫酸	2回/年	mg/m ³ N	5	<1	
	硝酸	2回/年	cm ³ /m ³ N	50	<1	
	塩化水素	2回/年	mg/m ³ N	5	<1、1	
	弗素及びその化合物	2回/年	mg/m ³ N	1	<0.1	
廃ガス洗浄装置 No. 4	硫酸	2回/年	mg/m ³ N	5	<1	
	硝酸	2回/年	cm ³ /m ³ N	50	<1、1	
	塩化水素	2回/年	mg/m ³ N	5	<1、1	
	弗素及びその化合物	2回/年	mg/m ³ N	1	<0.1	
有機ドラフト No. 1	ジクロロメタン	2回/年	cm ³ /m ³ N	40	<1	
	臭気指数	2回/年	-	30	13	
有機ドラフト No. 2	ジクロロメタン	2回/年	cm ³ /m ³ N	40	<1	
	臭気指数	2回/年	-	30	<10	
有機ドラフト No. 3	トルエン	2回/年	cm ³ /m ³ N	80	<1	
	ジクロロメタン	2回/年	cm ³ /m ³ N	40	<1	
	臭気指数	2回/年	-	30	<10	
有機ドラフト No. 4	トルエン	2回/年	cm ³ /m ³ N	80	<1	
	ジクロロメタン	2回/年	cm ³ /m ³ N	40	<1	
	臭気指数	2回/年	-	30	<10	

注 1) いずれの施設とも規制対象設備ではないため規制基準は適用されない。

注 2) 評価欄の 印は測定結果が自主管理基準値以下であることを示す。

7. 教育・訓練活動

従業員一人ひとりの環境管理に関する自覚と、必要な知識と技能の修得のため、環境マネジメントシステムに基づく教育・訓練活動を積極的に展開しています。

◇環境マネジメント教育・訓練活動の種類と目的

教育・訓練の種類	目 的
環境マネジメントシステム教育	環境方針・目的目標・ISO14001の要求事項に適合することの重要性を自覚
著しい環境影響の可能性のある作業の要員への教育・訓練	日常業務を行うために必要な薬品取扱、排水処理、排ガス処理、廃棄物処理に関する遵守事項の徹底
著しい環境影響の原因となりうる作業の要員への教育・訓練	薬品管理、排水処理施設運転、排ガス処理施設運転、廃棄物管理の担当者および責任者への必要な知識と技能の修得
社外講習会・セミナー	環境問題に関する幅広い見識の修得と人的交流の推進
環境関連資格の取得推進	法的に必要な資格者養成のみでなく、当社のお客様に対し環境に関する適切な支援ができる人材を養成

8. 緊急事態想定訓練・テスト

環境影響評価に基づき特定した環境緊急事態を想定し、対応訓練及びテストを定期的の実施して、リスク削減に努めています。



(初期対応)

【想定】

産業廃棄物（廃酸）流出

【対応手順】

初期対応（流出阻止）

連絡（連絡ルートによる）

回収作業

復旧確認

反省会



(回収作業)

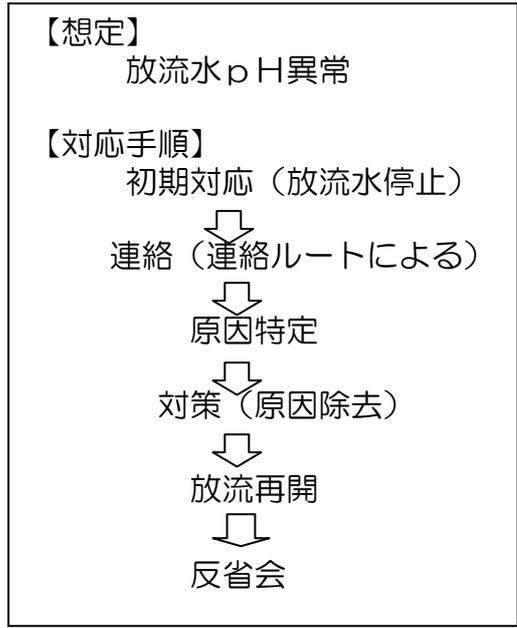


(反省会)

産業廃棄物流出を想定した対応訓練・テストの状況('03.7.25 実施)



(初期対応)



放流水pH異常を想定した対応訓練・テストの状況（'04.2.23 実施）

9. 地域貢献活動

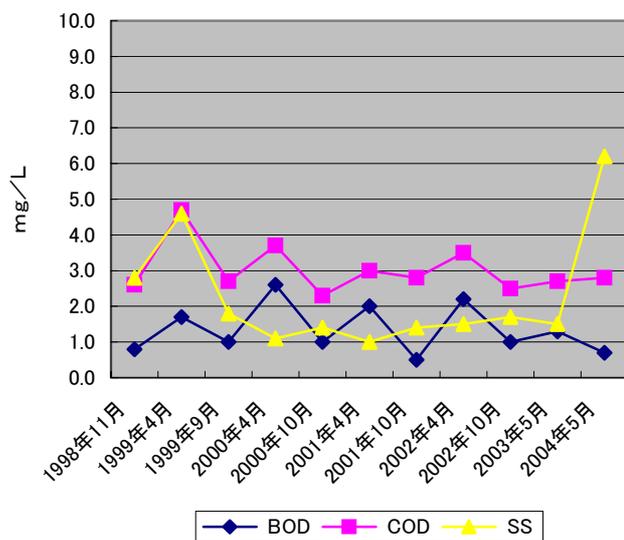
環境ボランティア活動を自主企画・実施するとともに行政や地域が主催する環境ボランティア活動にも積極的に参加しています。

また、事業所前を流れる盛越川の水質を自主的にモニタリングしています。



大津市民ヨシ刈り（'04.2.1 大津市主催）MDD帰帆島清掃（'03.11.30 NEC 関西主催）

備考：MDD(Make a Difference Day、琵琶湖周辺の自主清掃活動)



盛越川水質に列ク[®]（採水）

盛越川水質データの推移

10. 連絡先

株式会社 近畿分析センター

担当部門：環境管理課

〒520-0833

滋賀県大津市晴嵐二丁目9番1号

TEL 077-534-0651

FAX 077-533-1604

ホームページアドレス <http://www.kbc-em.co.jp>